

2020年度事業計画書

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

特定非営利活動法人フードバンク関西は、本年度、活動18年目に入ります。平成15年4月の活動開始以来、「食べ物は命の糧、大切にしたい」の思いでフードバンク事業を継続して参りました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大があり、感染者の急増により、人々が将来への不安を強烈に感じる中でのスタートになりました。4月7日には緊急事態宣言が、兵庫県、大阪府を含む7都府県に出され、外出自粛要請が出る中、パート、アルバイト等の非正規就労の人達が職を失う等、これからしばらくの間、社会的に弱い立場の人達の生活困窮の度合いが増すと予想され、フードバンクの存在意義が試されます。コロナ感染の終息が見えない中、状況予測が不可能ではありますが、本年度のフードバンク関西の活動の方向をまとめてみます。

I 2020年度に実施したい取り組み

(1) 食品の回収量の確保、特にお米の安定確保

昨年度、3月から米不足状態になり、食のセーフティネットやひとり親支援のためのお米確保のため、大半の福祉施設への米の提供を休止しました。この事態は毎年繰り返されています。本年度は、昨年度に続き、お米の安定的確保を重要課題にします。お米の生産農家へ当法人の活動趣旨を伝え、一緒になって社会課題である子どもの貧困、食の問題に取り組める関係を築いていきたいと思えます。

(2) 他団体や企業との連携による事業の拡充

昨年度、複数の企業、生活協同組合で実現できた、「余剰食品を寄付する」という立場を越えて、「企業とフードバンクが一緒になって社会課題解決のために取り組む」という関係作りを、対象企業を増やす等、さらに拡大できるよう、努力します。

(3) ボランティアのチーム化の促進

フードバンク関西のボランティア数も多くなり、各ボランティアは曜日や時間が異なるところで活動するため、多数で議論する機会が作りにくく、またお互いの情報基盤が異なり、議論が深化しにくい状況がありました。そのため、昨年度からボランティアミーティングを2か月に一度のセミナー形式にして研修の機会としました。

ボランティアの繋がり強化と、関わりたい事業への積極的参加を促すため、昨年度から、関心あるプロジェクト毎にチームを組んで、事業に取り組む形が出来てきました。渉外活動チーム、子ども食堂チーム、子ども元気ネットワークチーム、ホームページ検討チームが、既に活動しています。本年度はさらにチームでの取り組みを推進し、チームの中で議論をつくり、役割分担も引き受ける事を通じて、ボランティア一人一人がプロジェクトを動かす力量を付けていき、さらにチームの意見や見解が、当法人の活動の方向性や意思決定にも関与できる仕組みとしたいと思えます。

II 事業毎の2020年度企画

(1) 食品の回収事業 企業渉外チーム

社会的要因に左右されることは避けられないことを前提として、幅広く新規提供企業の開拓を実施します。具体的には、昨年度食品提供企業数が85社に対し、本年度は100社を数値目標とし達成を目指します。

この先、「食品ロス削減推進法」の施行に伴い、企業では生産や流通段階での調整やロス削減への具体的努力が進み、各企業からフードバンクへの食品提供量は、減少傾向が避けられない状況と予想されるので、それに対応する必要があります。

方策として、SDGsの高まりを背景にした企業訪問の継続、並びに経済団体、行政機関からパートナーとしての協力を得るべく、当法人の活動への更なる理解を深める取り組みを進めます。

(2) 福祉施設等への定期的食品分配事業

受取団体数は、漸増傾向が続くと考えます。受取団体として参加希望の意思表示をした非営利福祉団体に対して、対象施設に問題がなければ受け入れていく方針を継続します。受取団体となっている福祉施設や団体のスタッフは、それぞれの分野の専門家なので、フードバンク関西のパートナーとして情報や知見を得て、各施設の活動への理解を深め、よりよい関係作りに励みたいと考えます。

(3) 食のセーフティネット事業

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、外出自粛要請や休業要請に伴って仕事を失う人々の増加が懸念される状況です。事業協定を結んでいる行政や社会福祉協議会からの支援要請の増加、さらに直接本人からの緊急支援要請の急増が懸念されます。

2020年度中に、「第5回食のセーフティネット実務者による研修会」を開催予定です。昨年度の受益者数が1200人を超えたことを踏まえ、行政と当法人間の効果的な協働によって、「食のセーフティネット」事業が長期に継続できるよう努力します。また地域の困窮者に迅速な食支援を実施できるよう事業協定の未締結地域を減らし、兵庫県南部地域では、食のセーフティネットが機能しているという事が当たり前状態を地道に築いていく努力を行い、連携の強化と互恵関係の確立を働きかけます。

(4) 子ども元気ネットワーク事業

昨年度は「子ども未来応援基金」から、本年度は独立行政法人福祉医療機構から公的な助成金を、「子ども元気ネットワーク事業」で受領する事が決まっています。この事業への本年度の取り組みに対しては、目に見える形での成果を求められます。

内容としては、今までの各世帯への月1回の宅配を利用した食支援を継続しながら、期間や支援世帯数について、チームで議論して最適化を図ります。さらに今の事業形態では十分に把握できていない、本当に支援を必要とするひとり親世帯と繋がるためには、どのようにして情報を集め、何処と連携し、どこに協力を求めるのか、を調査します。食べ物の届け方についても宅配、あるいはパントリー等、最適な形を検討し、新しい形へシフトする準備の1年とします。

(5) 子ども食堂支援事業

① 食品の提供（受け取り団体として）

こども食堂にとって食材の確保は、安定的な運営に欠かせないものです。こども食堂は、子どもたちの居場所や学習、社会体験の場、子育て中の親はホッとできる場、

地域住民の交流の場となっており、そのような場が地域にあることで、困難な状況を抱えた子どもを含めた、すべての子どもたちが健全に育つ地域づくりが期待できます。

フードバンク関西は、引き続き、受取り団体として登録したこども食堂に食品を提供し、食材確保の面でサポートしていきます。また、こども食堂を開催する中で見えてきた生活困窮の子どもの世帯へ、こども食堂を通じて食品を提供することも継続していきます。こども食堂が必要とする主菜となる肉、魚などの素材を安定的に提供できるよう、提供企業開拓を進めていきます。

② 兵庫こども食堂ネットワーク

現在、事務局を当法人が担っていますが、将来的には、当事者であるこども食堂運営団体が役割分担をして事務局も担っていく形が良いと考えています。しかしながら、現時点では、余力のあるこども食堂は見当たらず、また、当法人と関連のある企業、団体からの支援を個々のこども食堂に繋いでいく役割が引き続き期待されることから、当面は事務局を継続していきます。

事務局として以下の内容を行います。

- ・ネットワーク会議（年3回）開催の準備、運営、報告
- ・グループメールでの情報提供
- ・全国こども食堂支援センターむすびえとの連絡、連携
- ・企業、団体との連携、マッチング
- ・こども食堂ネットワーク主催イベント「食べる・遊ぶ・笑うこども食堂」（8月19日開催予定）運営協力

(6) 広報

本年度は、下記項目について、活動を進めます。

① ホームページの全面更新

本年度は、ホームページの全面更新を、技術的な部分を専門家への委託という形をとって実行します。ホームページチームと専門家との協働作業により、「わかりやすい」「使いやすい」「共感できる」新しいホームページとします。

② 広報イベントの開催 他団体主催のイベントへの参加

1) 当法人主催のイベントを、世界食糧月間である10月に、「食品ロス削減と当法人の活動を広く市民の皆様に周知する機会」として企画します。コロナウィルス感染症の終息とその時の社会状況を踏まえて、内容は今後検討します。

2) 他団体主催のイベントへの参加について、参加を決定しているものは以下です。
* 8月19日に、兵庫こども食堂ネットワークと双葉学舎の共催イベントを、神戸市長田区双葉学舎で開催します。当法人は主催団体の事務局として、マネジメントを引き受けます。

* 10月開催の「兵庫県民農林漁業祭」 昨年度出展の体験を踏まえて、内容の充実を図ります。

* 2021年1月開催予定の「いのちと暮らしの映画祭」 実行委員会のメンバーとして、企画運営に複数団体と一緒に関わっていきます。

③ ニュース、年次報告書、事業成果報告書の発行

フードバンク関西ニュースは、年2回の発行を実施します。第42号は、2019年度通常総会後の5月末に、事業報告を主な内容として発行し、ご支援くださっている方々へ、郵送します。第43号は、半年後の秋11月頃を予定しています。

年次報告書は、2020年1月に2019年12月までの報告を内容にしたものを発行したので、本年度中ではなく、2021年6月頃、2020年度事業報告書として作成します。事業成果報告書については、WAMの助成事業の成果報告として冊子にまとめ、子ども元気ネットワーク事業の2020年度の進展を内容として2月に作成します。

④SNSを活用しての広報

新しいホームページには、SNSと連動する形でのブログページを作り、当法人の活動の新鮮な情報を公開していく予定です。SNSとして活用しているfacebookへは、トピックスがある都度、新しい投稿をつづけます。

Ⅲ 法人運営について

運営資金の主な収入源を寄付に依存する当法人にとっては、新型コロナウイルス禍終息後の日本経済や社会の変化がどうなるのかは、大きな不安要素です。しかし、別の視点から捉えれば、フードバンク活動は、困窮者支援と食品ロス削減のために、社会に必要欠くべからざるものとして、その存在価値を増すと考えられるので、活動を地道に継続していくことで、社会の仕組みの一つとして定着できると考えます。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を見て、コロナ禍後には、社会の変化を機敏にとらえて、社会的に弱い立場の人々、本当に支援を必要とする人達に食べ物を届けられるフードバンク関西になっていく努力をします。

当法人の活動は、企業、団体、個人との連携や参加なくしては成り立ちません。たくさんの方の企業や団体と連携を深める中で、事業を拡大していけるよう、努力したいと考えています。皆様のご協力とご支援をお願い申し上げます。